

花咲き山

令和3年度
飯豊町立飯豊中学校
第2学年だより
第33号
2021.11.12
文責：小松正義

修学旅行記

8日(月)

心配をよそに、天候にも恵まれ初日がスタートしました。最初の見学地「**蔵美溪・サハラガラスパーク**」での子ども達の目的は「かっこうだんご」でしたが、最初目にした風景に「きれい」「すごい」という声、自然美をしっかりと感じていました。当然、対岸から滑り降りてくる団



子をほおばる班も多くありました。お団子だけでなくお茶のおいしさにも感動の声が上がっていました。ガラスパークでは工房の様子も見学することができました。今回のお小遣いでは到底購入することのできない商品を見ながらうっとりしつつも、気に入ったガラス製品を買い求める姿も見られました。



「**えさし藤原の郷**」で昼食をとり、見学NHK大河ドラマのほとんどがロケ地として活用する場所だけあって、いにしえの時代にタイムスリップ、班別にスタンプラリー、弓矢、武将や貴族に変身、トリックアート、鯉の餌やりなど多くの体験を楽しみました。



「**宮沢賢治記念館・童話村**」では宮沢賢治の世界に浸りたかったのですが、時間が短くなりお土産を買う時間すらきつくなってしまいました。本当はたっぷり時間を取ってしっかり見学できれば宮沢賢治の人となりを知



ることができたのでしょが・・・。

宿泊先のホテル花巻では、夕食の後にホテルの方に感謝の意味を含め合唱を披露させていただきました。大変喜んでいただき感謝です。合唱へのお礼にと花巻温泉のキャラクター「フクロー」のぬいぐるみをいただきました。この学年に福が訪れるよう、早速学年のマスコットにさせていただきました。



9日(火)

2日目はあいにくの天気となりました。予想していたとはいえ残念でなりません。「**とのおの物語の館・遠野市立博物館**」では、語り部の方から昔話をお聞きしました。リクエストに応える形でしたので、1組は「座敷童」2組は「河童」と違う話になりました。どちらも昔ながらの話し口調（方言）のため、内容を理解するのも苦労していましたが、柔らかな語り口調に魅了されました。



午後は「**大槌町震災学習**」、天気が良ければ、実



際に町の中を歩きながら被災した方からお話しをいただく予定でしたが、あいにくの暴風雨のため交流センターで学習しました。

当時中学1年生だったスタッフさんは、同級生を2名失い卒業までの2年間を送ったことや、目の前で家族を失った仲間がいたことなど、当時をふり返り話をさせていただきました。

「**鯨と海の博物館**」には体長17mを越す鯨の骨格標本が展示されており、完成までの映像を含め本物に触れる感動を味わっていました。海にまつわるクイズなども準備されており、班別に楽しみながら見学していました。



2日目のホテルでも夕食の後に合唱を披露しました。厨房で働く女性の方はゴムの前掛け姿、忙しい中聴いてくださいました。目頭を指で押さえる姿に、子ども達の感謝を伝えたいという気持ちが、本当に伝わっていることを実感し、私たちも感激しました。

出発前に確認した、時間を意識した行動ができており、初日の反省の改善も見られ順調に2日間を終えました。



10日(水)

いよいよ最終日、今日も良いスタートを切ろうとした矢先、時間になっても朝食会場に現れない女子が数名、寝過ごしてしまいました。旅程が決まっている集団での旅行で時間が守られないのは致命傷。朝食の時間は10分削られ、まるでお通夜のように、これからの生活に向け大きな課題を抱えてのスタートとなりました。

最初の見学地、「津波伝承館・奇跡の一本松」は、津波で押し流された町の中に新たに建てられた施設です。本来民家が点在していた町並みが一切無いため、広大な広場の中にぽつりと新しい施設があるのです。前日、大槌で震災学習をしているため、施設内の資料を食い入るように見学する様子が至るところで見られました。また、一本松の献花台前では、津波で命を失った方に向け黙祷も捧げました。



が点在していた町並みが一切無いため、広大な広場の中にぽつりと新しい施設があるのです。前日、大槌で震災学習をしているため、施設内の資料を食い入るように見学する様子が至るところで見られました。また、一本松の献花台前では、津波で命を失った方に向け黙祷も捧げました。



最後の見学地は、「岩手サファリパーク」行きたい見学地No.1の施設です。本来休館日の日をオープンしていただいた見学地の一つでした。最も盛り上がったのは、草食動物エリアの餌やり体験、



バスの窓越しにダチョウやリヤマ、鹿、らくだ、そしてキリンにも餌をやることができました。最初は怖々だったのですが、なれるに従って頭をなでるなど、普段では味わえない感触にうれしそうな声が響いていました。



3日間の修学旅行では、学年の課題も多く見つかりました。それ以上に学年の良さも改めて確認することができました。生徒スローガンにもあるように、「これからの活かす」ようにしていきたいと思います。何より57名全員で3日間を無事に過ごすことができたことは、この学年の何よりの財産です。



子ども達の成果と課題、感想などは追って紹介していきます。

コロナ禍で県外の修学旅行、職場によっては大変気を遣われたお家の方もあったと思いますが、旅行の実施、お子さんの参加についてご承諾頂いたことに感謝致します。

